

(様式第 9)

国 がん 発 第 395 号  
平成 23 年 10 月 14 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 独立行政法人国立がん研究セン  
理事長 嘉山 孝

独立行政法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	119人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	148人	95.6人	243.6人	看護補助者	9.9人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	1人	人	1.0人	理学療法士	2.0人	臨床検査技師	60.2人
薬 剤 師	33人	16.9人	49.9人	作業療法士	1.0人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	0.8人	その他	人
助 産 師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	530人	3.1人	533.1人	臨床工学技士	4.0人	医療社会事業従事者	8.1人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	13.0人
歯科衛生士	人	0.8人	0.8人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	123.6人
管理栄養士	4人	3.1人	7.1人	診療放射線技師	50.6人	そ の 他 の 職 員	56.0人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	508.9人	0人	508.9人
1日当たり平均外来患者数	1000.8人	13.2人	1014.0人
1日当たり平均調剤数		5,786剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
人工括約筋を用いた尿失禁手術	5人
CTガイド下気管支鏡検査	0人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	93人
網膜芽細胞腫の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的肺がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性肺がん(切除が困難なものに限る。)	2人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん	8人
経皮的腎がんラジオ波焼灼療法 原発性又は転移性腎がん(切除が困難なものに限る。)	0人
CT透視ガイド下経皮的骨腫瘍ラジオ波焼灼療法転移性骨腫瘍(既存の治療法により制御不良なものに限る。)又は類骨腫(診断が確定したものに限る。)	0人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	2人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	0人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	6人	・原発性胆汁性肝硬変	11人
・全身性エリテマトーデス	3人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・再生不良性貧血	9人	・混合性結合組織病	0人
・サルコイドーシス	9人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	1人	・特発性間質性肺炎	0人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	8人	・網膜色素変性症	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	18人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	2人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	25人	・神経線維腫症	6人
・大動脈炎症候群	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	5人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	0人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	1人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	6人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	6人	・肥大型心筋症	7人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	0人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	0人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	1人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	3人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPCとして年間10回、それ以外各臓器グループでの臨床部門と病理診断部門の定期的な症例検討会は週平均7回行われています。
部 検 の 状 況	部検症例数      42 例      /      部検率      10.22%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん診療を標準化するための病理学的診断基準確立と普及、ならびに全国的な病理診断精度保証システムの構築に関する研究	津田 均	国立がん研究センター中央病院	12,322,000	補委 がん研究開発費
血液サンプルを用いた、難治性固形癌のがん薬物療法の効果予測因子の臨床的有効性の検討	米盛 勸	国立がん研究センター中央病院	1,000,000	補委 がん研究開発費
国立がん研究センター受診者コホートを対象にした、がんのゲノム・遺伝子解析研究の基盤整備に関する研究	加藤 健	国立がん研究センター中央病院	17,600,000	補委 がん研究開発費
進行肝胆膵の治療法に関する研究	奥坂 拓志	国立がん研究センター中央病院	12,350,000	補委 がん研究開発費
科学的・行政的視点を踏まえた、がん細胞免疫療法の開発	平家 勇司	国立がん研究センター中央病院	13,821,000	補委 がん研究開発費
がん治療におけるIVRの技術向上と標準化に関する研究	竹内 義人	国立がん研究センター中央病院	12,850,000	補委 がん研究開発費
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血幹細胞移植法の確立に関する研究	森 慎一郎	国立がん研究センター中央病院	800,000	補委 がん研究開発費
婦人科領域の稀少がんに対する標準的治療法の確立に関する研究	笠松 高弘	国立がん研究センター中央病院	12,350,000	補委 がん研究開発費
食道がんの外科治療における口腔ケア・栄養管理・リハビリの役割に関する研究	日月 裕司	国立がん研究センター中央病院	1,100,000	補委 がん研究開発費
食道がんの外科治療における口腔ケア・栄養管理・リハビリの役割に関する研究	上野 尚雄	国立がん研究センター中央病院	1,100,000	補委 がん研究開発費
食道がんの外科治療における口腔ケア・栄養管理・リハビリの役割に関する研究	桑原 節子	国立がん研究センター中央病院	1,100,000	補委 がん研究開発費
骨転移患者のQOL改善を目指した早期診断・治療体系の確立に関する研究	中馬 広一	国立がん研究センター中央病院	1,200,000	補委 がん研究開発費
遺伝子発現プロファイルによる神経膠腫悪性度診断法の多施設検証試験	成田 善孝	国立がん研究センター中央病院	3,000,000	補委 がん研究開発費
全国登録に基づく稀少がんの診療実態に把握と治療体系の構築に関する研究	川井 章	国立がん研究センター中央病院	11,400,000	補委 がん研究開発費
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	飛内 賢正	国立がん研究センター中央病院	40,710,000	補委 がん研究開発費
呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	田村 友秀	国立がん研究センター中央病院	10,130,000	補委 がん研究開発費
呼吸器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	浅村 尚生	国立がん研究センター中央病院	41,130,000	補委 がん研究開発費
消化器悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	島田 安博	国立がん研究センター中央病院	48,500,000	補委 がん研究開発費
希少悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同試験	渋井 壮一郎	国立がん研究センター中央病院	30,040,000	補委 がん研究開発費
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	加賀美 芳和	国立がん研究センター中央病院	500,000	補委 がん研究開発費
難治がん対策推進のための総合的研究	藤原 康弘	国立がん研究センター中央病院	145,580,000	補委 がん研究開発費
DDS製剤の臨床導入に関する研究	濱口 哲弥	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委 がん研究開発費
ホルモン受容体、HER2蛋白発現と臨床アウトカムとの相関性の評価	清水 千佳子	国立がん研究センター中央病院	1,000,000	補委 がん研究開発費
腹部臓器に発生するがんに対する診断支援システムの開発と利用に関する研究	飯沼 元	国立がん研究センター中央病院	18,990,000	補委 がん研究開発費
IGRT時の追加被曝の評価と放射線誘発がんリスク推定に関する研究	馬屋原 博	国立がん研究センター中央病院	1,200,000	補委 がん研究開発費
難治性リンパ系腫瘍の生物学的特性に基づく治療法の開発・推進	飛内 賢正	国立がん研究センター中央病院	1,000,000	補委 がん研究開発費

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
標準的治療法の確立に関する臨床研究(手術療法)	小菅 智男	国立がん研究センター中央病院	2,200,000	補委	がん研究開発費
眼内腫瘍の診療体制確立	鈴木 茂伸	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委	がん研究開発費
再発リスクに応じた適正な乳がん局所療法の確立に関する研究	明石 定子	国立がん研究センター中央病院	1,100,000	補委	がん研究開発費
肝胆膵外科手術手技の客観的評価と科学的根拠に基づいた有用性の検討および肝胆膵がんに対する低侵襲外科治療の確立	島田 和明	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委	がん研究開発費
悪性黒色腫に対する新しい診療体系の確立に関する研究	山崎 直也	国立がん研究センター中央病院	11,660,000	補委	がん研究開発費
標準的治療法の確立に関する臨床研究(放射線治療・薬物療法)	田村 友秀	国立がん研究センター中央病院	2,600,000	補委	がん研究開発費
抗悪性腫瘍薬を用いた標準的治療を実地医療に適合するための臨床薬理学研究	田村 研治	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委	がん研究開発費
多発性骨髄腫の病態解明と分子基盤に基づく効果的な分子標的療法の確立に関する研究	渡辺 隆	国立がん研究センター中央病院	1,400,000	補委	がん研究開発費
肝がんの標準的治療確立のための臨床試験についての研究	荒井 保明	国立がん研究センター中央病院	6,160,000	補委	がん研究開発費
安全で高精度な放射線治療を実現する放射線治療体制に関する研究	伊丹 純	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委	がん研究開発費
支持療法・がん患者支援にかかわる研究	的場 元弘	国立がん研究センター中央病院	2,000,000	補委	がん研究開発費
がん患者の支持療法・緩和療法技術の向上及びその評価に関する研究	的場 元弘	国立がん研究センター中央病院	12,380,000	補委	がん研究開発費
がん治療による口腔内合併症の予防法及び治療法の確立に関する研究	浅井 昌大	国立がん研究センター中央病院	11,160,000	補委	がん研究開発費
初期研修医に対する精神腫瘍学教育プログラム	清水 研	国立がん研究センター中央病院	1,000,000	補委	がん研究開発費
ポリープ切除の大腸がん予防に及ぼす効果の評価と内視鏡検査間隔の適正化に関する前向き臨床試験	松田 尚久	国立がん研究センター中央病院	29,463,000	補委	厚生労働科研費
臨床病期Ⅱ・Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	藤田 伸	国立がん研究センター中央病院	32,376,000	補委	厚生労働科研費
悪性神経膠腫に対するTemozolomideの治療効果を増強した標準治療確立に関する研究	渋井 壮一郎	国立がん研究センター中央病院	24,803,000	補委	厚生労働科研費
緩和ケアにおけるIVRの確立についての研究	荒井 保明	国立がん研究センター中央病院	26,017,000	補委	厚生労働科研費
放射線治療期間の短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	加賀美 芳和	国立がん研究センター中央病院	45,750,000	補委	厚生労働科研費
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験	片井 均	国立がん研究センター中央病院	21,682,000	補委	厚生労働科研費
HER2過剰発現のない乳癌に対する術前化学療法におけるCarboplatinの有用性の検討	安藤 正志	国立がん研究センター中央病院	83,265,000	補委	厚生労働科研費
悪性胸膜中皮腫の診断及び治療法の確立とアスベスト曝露の実態に関する研究	金子 昌弘	国立がん研究センター中央病院	100,772,000	補委	厚生労働科研費
放射線による認知機能障害を回避する転移性脳腫瘍の治療法に関する研究	嘉山 孝正	国立がん研究センター中央病院	10,500,000	補委	厚生労働科研費
がん患者及びその家族や遺族の抱える精神心理的負担によるQOLへの影響を踏まえた精神心理的ケアに関するけんげい	清水 千佳子	国立がん研究センター中央病院	7,000,000	補委	厚生労働科研費
早期胃がん内視鏡切除症例のWebを用いたがん登録システムによる前向きがん登録に関する研究	小田 一郎	国立がん研究センター中央病院	16,098,000	補委	厚生労働科研費
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	奥坂 拓志	国立がん研究センター中央病院	23,790,000	補委	厚生労働科研費



1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	森 慎一郎	国立がん研究センター中央病院	29,280,000	補委	厚生労働科研費
切除不能進行・再発胃癌に対する個別化治療に関する研究	山田 康秀	国立がん研究センター中央病院	22,875,000	補委	厚生労働科研費
膝がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	小菅 智男	国立がん研究センター中央病院	35,722,000	補委	厚生労働科研費
限局型総細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	田村 友秀	国立がん研究センター中央病院	27,450,000	補委	厚生労働科研費
国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治癒切除大腸がん術後補助治療の確立	森谷 亘皓	国立がん研究センター中央病院	48,800,000	補委	厚生労働科研費
進行卵巣がんに対する分子標準的薬の国際共同・医師主導治療	勝俣 範之	国立がん研究センター中央病院	31,720,000	補委	厚生労働科研費
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤エビデンスの確立に関する研究	福田 隆浩	国立がん研究センター中央病院	55,510,000	補委	厚生労働科研費
治療の初期段階から身体・精神症状緩和導入を推進するための研究	清水 研	国立がん研究センター中央病院	14,640,000	補委	厚生労働科研費
新しい内視鏡診断機器の臨床への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する調査研究	齋藤 豊	国立がん研究センター中央病院	47,988,000	補委	厚生労働科研費
がん性疼痛などの緩和のための病態生理に基づいた新たな治療法の開発	的場 元弘	国立がん研究センター中央病院	85,538,000	補委	厚生労働科研費
トリプルネガティブ乳がんに対する創薬と治療の最適化	田村 研治	国立がん研究センター中央病院	28,716,000	補委	厚生労働科研費
新しい薬物療法の導入とその最適化に関する研究	田村 友秀	国立がん研究センター中央病院	71,472,000	補委	厚生労働科研費
高度医療技術の効率化及び標準化の開発に関する研究	嘉山 孝正	国立がん研究センター中央病院	181,104,000	補委	厚生労働科研費
がん領域におけるアジア随一の臨床研究拠点をめざした統合的臨床研究基盤の確立	藤原 康弘	国立がん研究センター中央病院	154,375,000	補委	厚生労働科研費
小児悪性固形腫瘍領域における体系的な臨床試験実施に基づく適応外医薬品の臨床導入の妥当性検討に関する研究	牧本 敦	国立がん研究センター中央病院	58,500,000	補委	厚生労働科研費
大量メントレキセート療法時に生じるメントレキセート排泄遅延に対するグルカルビダーゼの臨床薬理及び早期有効性・安全性検討試験	河本 博	国立がん研究センター中央病院	2,279,375	補委	厚生労働科研費
医師主導治験における治験調整事務局業務の標準化委・効率化に関する研究	笠井 宏委	国立がん研究センター中央病院	3,000,000	補委	厚生労働科研費
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	国立がん研究センター中央病院	25,000,000	補委	厚生労働科研費
				補委	

計18件

合計70件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer	Disruption of the blood brain barrier by brain metastases of triple-negative and basal-type breast cancer but not HER2/neu-positive breast cancer.	Fujiwara Y.	Breast Oncology
Breast Cancer Res Treat	Randomized phase III trial of trastuzumab monotherapy followed by trastuzumab plus docetaxel versus trastuzumab plus docetaxel as first-line therapy in patients with HER2-positive metastatic breast cancer : the JO17360 Trial Group.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Oncology	Influence of Suboptimal Treatment in Patients with Mediastinal Primary Nonseminomatous Germ Cell Tumors.	Fujiwara Y	Breast Oncology
J Surg Oncol	Immunohistochemical expression of HER1, HER3, and HER4 in HER2-positive breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neoadjuvant chemotherapy.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Mod Pathol	Grading system for lymph vessel tumor emboli: significant outcome predictor for patients with invasive ductal carcinoma of the breast who received neoadjuvant therapy.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Psychooncology	Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Br J Cancer	Predictors of recurrence in breast cancer patients with a pathologic complete response after neoadjuvant chemotherapy.	Fujiwara Y	Breast Oncology
J Orthop Sci	Multicenter phase II trial assessing effectiveness of imatinib mesylate on relapsed or refractory KIT-positive or PDGFR-positive sarcoma.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Ann Oncol	Participation of elderly patients in registration trials for oncology drug applications in Japan.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Ann Oncol	Prediction of progressive disease using tumor markers in metastatic breast cancer patients without target lesions in first-line chemotherapy.	Fujiwara Y	Breast Oncology
J Clin Oncol	Denosumab compared with zoledronic acid for the treatment of bone metastases in patients with advanced breast cancer: a randomized double blind study.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Med Oncol.	Clinical characteristics and outcomes of women with stage IV endometrial cancer.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Urol Oncol	The incidence and management of metachronous testicular germ cell tumors in patients with extragonadal germ cell tumors.	Fujiwara Y	Breast Oncology
J Geriatric Oncology	Do investigators show selection biases when enrolling patients in phase I oncology registration trials?	Fujiwara Y	Breast Oncology
Jpn J Clin Oncol	De-identification Procedure and Sample Quality of the Post-clinical Test Samples at the Bio-repository of the National Cancer Center Hospital (NCCH) in Tokyo.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Jpn J Clin Oncol	Prognostic Factors in Young Japanese Women with Breast Cancer: Prognostic Value of Age at Diagnosis.	Fujiwara Y	Breast Oncology
Cancer Science	Genome-wide DNA methylation profiles in urothelial carcinomas and urothelia at the precancerous stage.	Fujimoto H	Pathology
Cancer Science	Fibroblast growth factor receptor 3 mutation in voided urine is a useful diagnostic marker and significant indicator of tumor recurrence in non-muscle invasive bladder cancer.	Fujimoto H	Oncogene
Japanese Journal of Clinical Oncology	A Phase II Study of Sunitinib in Japanese Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma: Insights into the Treatment, Efficacy and Safety.	Fujimoto H	Urology
European Journal of Surgical Oncology	Development of "extended radical retropubic prostatectomy": a surgical technique for improving margin positive rates in prostate cancer.	Fujimoto H	Urology

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Urology	Cancer death from non-muscle invasive bladder cancer: Report of the Japanese Urological Association of data from the 1999-2001 registry in Japan	Fujimoto H	Urology
Cancer Chemother Pharmacol	An early phase II trial of S-1 in Japanese patients with cytokine-refractory metastatic renal cell carcinoma.	Fujimoto H	Urology
Oncology	Efficacy of S-1 in patients with castration-resistant prostate cancer: a phase II study.	Fujimoto H	Urology
Cancer Sci	Phase I and pharmacokinetic study of inotuzumab ozogamicin (CMC-544) in Japanese patients with follicular lymphoma pretreated with rituximab-based therapy.	Tobinai K	Hematology
Cancer Sci	Phase II multicenter study of bendamustine for relapsed indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma and mantle cell lymphoma.	Tobinai K	Hematology
Semin Hematol	Clinical trials for human T-lymphotropic virus type I-associated peripheral T-cell lymphoma in Japan.	Tobinai K	Hematology
Int J Hematol	Phase I study of the oral mammalian target of rapamycin inhibitor everolimus (RAD001) in Japanese patients with relapsed or refractory non-Hodgkin lymphoma.	Tobinai K	Hematology
J Clin Oncol	Phase I study of KW-0761, a defucosylated humanized anti-CCR4 antibody, in relapsed patients with adult T-cell leukemia-lymphoma and peripheral T-cell lymphoma.	Tobinai K	Hematology
Cancer Sci	A phase I and pharmacokinetic study of bendamustine hydrochloride in relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma and mantle cell lymphoma.	Tobinai K	Hematology
Cancer Sci	Potential efficacy of oral histone deacetylase inhibitor vorinostat in phase I trial in follicular and mantle cell lymphoma.	Watanabe T	Hematology
Int J Hematol	Modified cyclophosphamide, vincristine, doxorubicin, and high-dose methotrexate (CODOX-M)/ifosfamide, etoposide, and high-dose cytarabine (IVAC) therapy with or without rituximab is highly effective and well-tolerated in Japanese adult patients with Burkitt/Burkitt-like lymphoma.	Maruyama D	Hematology
Cancer Sci	Randomized phase II study of concurrent and sequential combinations of rituximab plus CHOP chemotherapy in untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma: seven-year follow-up	Tobinai K	Hematology
Int J Hematol	Phase II study of ABVd (doxorubicin, bleomycin, vinblastine and dacarbazine) therapy for previously untreated advanced-stage Hodgkin lymphoma: Japan Clinical Oncology Group study	Tobinai K	Hematology
Expert Opin Invest Drugs	Investigational histone deacetylase inhibitors for NHL.	Watanabe T	Hematology
Expert Rev Hematol	Adult T-cell leukemia-lymphoma: current treatment strategies and novel immunologic approaches.	Tanosaki R	Hematology
Cancer Sci	A phase I trial of LY2469298, an Fc-engineered anti-CD20 monoclonal antibody, in Japanese patients with previously treated follicular lymphoma.	Tobinai K	Hematology
Cancer Sci	Relevance of monitoring metabolic reduction in patients with relapsed or refractory follicular and mantle cell lymphoma receiving bendamustine: a multicenter trial.	Tobinai K	Hematology
Gastric Cancer	Safety and feasibility of laparoscopy-assisted distal gastrectomy with suprapancreatic nodal dissection for clinical stage I gastric cancer: a multicenter phase II trial (JCOG 0703).	Katai H	Gastric Surgery Division
Gastric Cancer	Correlation between the length of the pyloric cuff and postoperative evaluation after pylorus-preserving gastrectomy.	Morita S	Gastric Surgery Division
Surg Endosc	Laparoscopy-assisted pylorus-preserving gastrectomy: a matched case-control study.	Katai H	Gastric Surgery Division
Br J Surg	Long-term outcome after proximal gastrectomy with jejunal interposition for suspected early cancer in the upper third of the stomach.	Katai H	Gastric Surgery Division

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast	Feasibility of breast conserving surgery for Paget's disease.	Kinoshita T	Breast Surgery
Br J Cancer	Modified primary tumour/vessel tumour/nodal tumour classification for patients with invasive ductal carcinoma of the breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer	Sentinel lymph node biopsy in breast cancer patients with previous breast augmentation surgery.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer Res Treat	Tumor-infiltrating lymphocytes are correlated with response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative breast cancer.	Kinoshita T	Breast Surgery
Jpn J Clin Oncol	A Case of Metaplastic Carcinoma of the Breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
Am J Surg Pathol	Atypical tumor-stromal fibroblasts in invasive ductal carcinoma of the breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer	Preoperative therapy: recent findings.	Kinoshita T	Breast Surgery
Hum Pathol	Atypical tumor-stromal fibroblasts in invasive ductal carcinomas of the breast treated with neoadjuvant therapy.	Kinoshita T	Breast Surgery
Annals of Oncology	FcyR2A and 3A polymorphisms predict clinical outcome of trastuzumab in both neoadjuvant and metastatic settings in patients with HER2-positive breast cancer.	Kinoshita T	Breast Surgery
Jpn J Clin Oncol	Prognostic factors in young Japanese women with breast cancer: prognostic value of age at diagnosis.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer	A histopathological study for evaluation of therapeutic effects of radiofrequency ablation in patients with breast cancer.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer	Histopathological effect of radiofrequency ablation therapy for primary breast cancer, with special reference to changes in cancer cells and stromal structure and a comparison with enzyme histochemistry.	Kinoshita T	Breast Surgery
Breast Cancer	Radiofrequency ablation as local therapy for early breast carcinomas.	Kinoshita T	Breast Surgery
Genes Cells	Up-regulation of PSF1 promotes the growth of breast cancer cells.	Kinoshita T	Breast Surgery
British Journal of Cancer	Predictors of recurrence in breast cancer patients with a pathologic complete response after neoadjuvant chemotherapy.	Kinoshita T	Breast Surgery
Hum Pathol	Metaplastic carcinoma of the breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
Modern Pathology	p53 expression in tumor-stromal fibroblasts forming and not forming fibrotic foci in invasive ductal carcinoma of the breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
The Breast	Evaluation of sentinel node biopsy by combined fluorescent and dye method and lymph flow for breast cancer.	Kinoshita T	Breast Surgery
Human PATHOLOGY	Grading system for lymph vessel tumor emboli: significant outcome predictor for invasive ductal carcinoma of the breast.	Kinoshita T	Breast Surgery
Modern Pathology	Grading system for lymph vessel tumor emboli: significant outcome predictor for patients with invasive ductal carcinoma of the breast who received neoadjuvant therapy.	Kinoshita T	Breast Surgery
Journal of Surgical Oncology	Immunohistochemical expression of HER1, HER3, and HER4 in HER2-positive breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neoadjuvant chemotherapy.	Kinoshita T	Breast Surgery
Human PATHOLOGY	p53 expression in tumor-stromal fibroblasts is closely associated with the nodal metastasis and outcome of patients with invasive ductal carcinoma who received neoadjuvant therapy.	Kinoshita T	Breast Surgery

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol	The optimal debulking after neoadjuvant chemotherapy in ovarian cancer: proposal based on interval look during upfront surgery setting treatment.	Onda T	Gynecology
Expert Rev. Anticancer Ther.	Neoadjuvant chemotherapy for advanced ovarian cancer: overview of outcomes and unanswered questions	Onda T	Gynecology
J Thorac Oncol	Survival Differences by Gender for Resected Non-small Cell Lung Cancer: A Retrospective Analysis of 12,509 Cases in a Japanese Lung Cancer Registry Study.	Sakurai H	Thoracic Surgery
J Thorac Oncol	Multiple primary cancers or multiple metastases, that is the question.	Asamura H	Thoracic Surgery
J Thorac Oncol	Pathologic diagnosis of advanced lung cancer based on small biopsies and cytology: a paradigm shift.	Asamura H	Thoracic Surgery
J Thorac Oncol	Clinicopathologic analysis of multiple (five or more) atypical adenomatous hyperplasias (AAHs) of the lung: evidence for the AAH-adenocarcinoma sequence.	Asamura H	Thoracic Surgery
J Thorac Oncol	Histological scoring for small lung adenocarcinomas 2 cm or less in diameter: a reliable prognostic indicator.	Asamura H	Thoracic Surgery
Jpn J Clin Onco	A Phase III Randomized Trial of Lobectomy Versus Limited Resection for Small-sized Peripheral Non-small Cell Lung Cancer.	Asamura H	Thoracic Surgery
Br J Cancer	Gemcitabine alone or in combination with cisplatin in patients with biliary tract cancer: a comparative multicenter study in Japan.	Okusaka T	Hepatobiliary Pancreatic
Jpn J Clin Oncol	Cisplatin and etoposide as first-line chemotherapy for poorly differentiated neuroendocrine carcinoma of the hepatobiliary tract and pancreas.	Morizane C	Hepatobiliary Pancreatic
Molecular and Cellular Proteomics	Survival prediction for pancreatic cancer patients receiving gemcitabine treatment.	Ueno H	Hepatobiliary Pancreatic
Jpn J Clin Oncol	Phase II study of gemcitabine chemotherapy alone for locally advanced pancreatic carcinoma: JCOG0506.	Okusaka T	Hepatobiliary Pancreatic
Jpn J Clin Oncol	A conundrum for randomized controlled trials: experier from a small hepatocellular carcinoma trial.	Okusaka T	Hepatobiliary Pancreatic
Clin Pharmacokinet	Population pharmacokinetics of gemcitabine and its metabolite in Japanese cancer patients.	Ueno H	Hepatobiliary Pancreatic
Jpn J Clin Oncol,	Randomized phase II study of gemcitabine plus s-1 combination therapy vs. S-1 in advanced biliary tract cancer. Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0805).	Morizane C	Hepatobiliary Pancreatic
Jpn J Clin Oncol,	Long-term administration of wilms tumor-1 peptide vassine in combination with gemcitabine causes severe local skin inflammation at injection sites.	Ueno H	Hepatobiliary Pancreatic
Cancer Sci	Phase I/II study of the pharmacokinetics, safety and efficacy of S-1 in patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Okusaka T	Hepatobiliary Pancreatic
Crit Rev Oncol Hematol, Epub ahead of print	Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer.	Okusaka T	Hepatobiliary Pancreatic
The Journal of Dermatology	Clinicopathological significance of sentinel node biopsy in Japanese patients with cutaneous malignant melanoma	Yamazaki N	Dermatology
European Journal of Dermatology	Sentinel lymph node biopsy guided by indocyanine green fluorescence for cutaneous melanoma	Namikawa K	Dermatology
The Journal of Dermatology (in press)	Prediction of Additional Lymph Node Positivity and Clinical Outcome of Micrometastases in Sentinel Lymph Nodes in Cutaneous Melanoma: A Multi-institutional Study of 450 Patients in	Namikawa K	Dermatology

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroenterol.	A laterally-spreading tumor in a colonic interposition treated by endoscopic submucosal dissection.	Saito Y	endoscope
Endoscopy	Feasibility of endoscopic mucosal resection for superficial pharyngeal cancer: a minimally invasive treatment.	Saito Y	endoscope
J Gastroenterol.	Safe and effective sedation in endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: a randomized comparison between propofol continuous infusion and intermittent midazolam injection.	Oda I	endoscope
British Journal of Surgery	Endoscopic resection of early gastric cancer treated by guideline and expanded National Cancer Center criteria.	Oda I	endoscope
Digestive Endoscopy	PREVALENCE AND CLINICOPATHOLOGICAL FEATURES OF NONPOLYPOID COLORECTAL NEOPLASMS: SHOULD WE PAY MORE ATTENTION TO IDENTIFYING FLAT AND DEPRESSED LESIONS?	Saito Y	endoscope
Digestive Endoscopy	MULTICENTER QUESTIONNAIRE SURVEY ON THE CURRENT SITUATION OF COLORECTAL ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION IN JAPAN.	Saito Y	endoscope
Digestive Endoscopy	IMPACT OF NARROW-BAND IMAGING IN SCREENING COLONOSCOPY.	Saito Y	endoscope
Digestive Endoscopy	LOCAL RECURRENCE AND SURVEILLANCE AFTER ENDOSCOPIC RESECTION OF LARGE COLORECTAL TUMORS.	Saito Y	endoscope
World J Gastroenterol.	Effectiveness of narrow-band imaging magnification for invasion depth in early colorectal cancer.	Saito Y	endoscope
J Gastroenterol Hepatol.	Diagnosis of depth of invasion for early colorectal cancer using magnifying colonoscopy.	Saito Y	endoscope
Surg Endosc.	Safety of carbon dioxide insufflation for upper gastrointestinal tract endoscopic treatment of patients under deep sedation.	Saito Y	endoscope
Biometals.	Cancer prevention by bovine lactoferrin: from animal studies to human trial.	Saito Y	endoscope
Digestive Endoscopy	INDICATIONS FOR ENDOSCOPIC RESECTION OF COLORECTAL POLYPS AND SURVEILLANCE GUIDELINES.	Saito Y	endoscope
J Clin Oncol.	Early detection of superficial squamous cell carcinoma in the head and neck region and esophagus by narrow band imaging: a multicenter randomized controlled trial.	Saito Y	endoscope
BMC Gastroenterol.	Efficacy of capillary pattern type IIIA/IIIB by magnifying narrow band imaging for estimating depth of invasion of early colorectal neoplasms.	Saito Y	endoscope
Gastrointest Endoscopy Clin N Am	Assessment of Likelihood of Submucosal Invasion in Non-Polypoid Colorectal Neoplasms.	Saito Y	endoscope
Gastroenterologie Clinique et Biologique	Our perspective on endoscopic resection for colorectal Neoplasms.	Saito Y	endoscope
Gastrointest Endosc Clin N Am.	Endoscopic submucosal dissection of non-polypoid colorectal neoplasms.	Saito Y	endoscope
Gastrointest Endosc.	Diagnostic accuracy of narrow-band imaging and pit pattern analysis significantly improved for less-experienced endoscopists after an expanded training program.	Saito Y	endoscope
J Gastroenterol.	Prague C&M and Japanese criteria: shades of Barrett's esophagus endoscopic diagnosis.	Oda I	endoscope

計 20 件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol Hepatol.	Endoscopic resection of gastrointestinal lesions: advancement in the application of endoscopic submucosal dissection.	Oda I	endoscope
World J Surg.	Stenosis of esophago-jejuno anastomosis after gastric surgery.	Oda I	endoscope
Gastrointest Endoscopy Clin N Am	The Natural History of Non-Polypoid Colorectal Neoplasms.	Mastuda T	endoscope
World J Gastroenterol	Endoscopic diagnosis of cytomegalovirus gastritis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Saito Y	endoscope
Gastrointest Endosc.	A prospective, multicenter study of 1111 colorectal endoscopic submucosal dissections (with video).	Saito Y	endoscope
Surg Endosc.	Clinical outcome of endoscopic submucosal dissection versus endoscopic mucosal resection of large colorectal tumors as determined by curative resection.	Saito Y	endoscope
Am J Clin Oncol.	Phase II Clinical Study on Stent Therapy for Unresectable Malignant Colorectal Obstruction	Arai Y	diagnostic radiology
Cardiovasc Intervent Radiol.	Radiological Insertion of Denver Peritoneovenous Shunts for Malignant Refractory Ascites: A Retrospective Multicenter Study	Arai Y	diagnostic radiology
Am J Clin Oncol.	Phase I/II study of hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine in patients with unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma	Arai Y	diagnostic radiology
Clin Colorectal Cancer.	Hepatic arterial infusion of 5-fluorouracil for patients with liver metastases from colorectal cancer refractory to standard systemic chemotherapy: a multicenter, retrospective analysis.	Arai Y	diagnostic radiology
J Vasc Interv Radiol.	Phase I/II multiinstitutional study of uterine artery embolization with gelatin sponge for symptomatic uterine leiomyomata: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group study.	Arai Y	diagnostic radiology
Cardiovasc Intervent Radiol.	Ultrasound-Guided Radiological Placement of Central Venous Port via the Subclavian Vein: A Retrospective Analysis of 500 Cases at a Single Institute.	Arai Y	diagnostic radiology
Am J Clin Oncol.	Phase I/II study of hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine in patients with unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma	Arai Y	diagnostic radiology
日本病院薬剤師学会誌	改正された臨床研究に関する倫理指針の基本理念	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
臨床医薬	第6回DIA日本年会 Global Development: 実践上の課題－臨床上のオペレーション上の問題点(1) ケーススタディー: 施設の取り組み CRCの立場から	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
腫瘍内科	高度医療評価制度	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
腫瘍内科	医師主導型臨床試験 乳がん領域における実施状況	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
腫瘍内科	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議によるドラッグ対策について	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
腫瘍内科	特別発言: 日本における医薬品開発と国民皆保険制度とのかかわり合いの抜本的見直し私案	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科
臨床医薬	治験と臨床研究の統一は可能か －臨床試験の科学性と倫理性の向上, 新たな制度と環境を求めて－ 臨床医からの提言: 国民皆保険制度下での治験, 高度医療評価制度と従来型医師主導臨床研究の協同システムの確立が必須	藤原康弘	乳腺・腫瘍内科

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgery Frontier	乳癌に対する熱凝固療法の適応と限界－RFAを中心に－	木下 貴之	乳腺外科
外科治療	乳がんに対するRFAの現状と今後	木下 貴之	乳腺外科
乳癌の臨床	早期乳癌手術の低侵襲化にともなうDay Surgery化への安全性試験	木下 貴之	乳腺外科
がんサポート	「傷をつけない治療」乳がんのラジオ波焼灼療法、実際の効果は？	木下 貴之	乳腺外科
血液・腫瘍科	乳がん外科治療におけるセンチネルリンパ節生検の意義:これまでの報告と今後の課題	木下 貴之	乳腺外科
消化器内視鏡	胃炎と類似した胃癌の内視鏡診断	角川康夫	消化管内視鏡科
臨床と研究	胃・食道の新しい内視鏡診断	斎藤豊	消化管内視鏡科
臨床消化器内科	5食道癌ハイリスクに対するサーベイランス	斎藤豊	消化管内視鏡科
日本臨床	下部消化管	斎藤豊	消化管内視鏡科
消化器内視鏡	大腸ESDのセーフティマネージメント 一周術期管理、外科との連携－	斎藤豊	消化管内視鏡科
INTESTINE	VII. EMRとESDのすみ分け ー私はこう考える e.腺腫にESDは必要か？	斎藤豊	消化管内視鏡科
消化器の臨床	大腸ESDの手技と工夫	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	8. 早期大腸癌に対する内視鏡治療後サーベイランス	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	治療法選択からみた側方発育型大腸腫瘍(LST)の分類と意義 ESDの立場から	斎藤豊	消化管内視鏡科
Medical ASAHI	大腸カプセル内視鏡の現状と将来	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	側方発育型大腸腫瘍(LST)の取り扱い	斎藤豊	消化管内視鏡科
THE GI FOREFRONT	大腸癌発生とエピジェネティクス	中島健	消化管内視鏡科
臨床消化器内科	小さいGISTの取り扱い	鈴木晴久	消化管内視鏡科
臨床消化器内科	1. 咽頭・喉頭領域における内視鏡 (1)第一線(臨床現場)での内視鏡検査のありかた	斎藤豊	消化管内視鏡科
内科	《腫瘍性病変における内視鏡診療の進歩》大腸腫瘍	斎藤豊	消化管内視鏡科



## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pharma Medica	上部消化管疾患に対する内視鏡の進歩	斎藤豊	消化管内視鏡科
日本消化器病学会雑誌	大腸腺腫性病変の診断・取り扱い	斎藤豊	消化管内視鏡科
外科治療	GISTの内視鏡診断	吉永繁高	消化管内視鏡科
胃と腸	範囲診断が困難であった低異型度高分化型早期胃癌の1例	吉永繁高	消化管内視鏡科
消化器外科	食道表在癌に対する集学的治療	吉永繁高	消化管内視鏡科
消化器内視鏡	大腸用カプセル内視鏡	斎藤豊	消化管内視鏡科
消化器内視鏡	[EMR・ESDの偶発症に対する内視鏡の役割] 大腸	斎藤豊	消化管内視鏡科
臨床外科	[外科医のための大腸癌の診断と治療 2. 大腸癌の診断] 超音波内視鏡検査	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	早期大腸低分化腺の1例	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	肝様腺癌 臨床の立場から	吉永繁高	消化管内視鏡科
INTESTIN	直腸(Rb)癌の謎 I [総論] (1) 大腸癌の部位別にみた時代的変遷	斎藤豊	消化管内視鏡科
胃と腸	大腸低分化腺癌の内視鏡的特徴	斎藤豊	消化管内視鏡科
INTESTIN	下部直腸のⅡb(LST-NG)病変の1例	斎藤豊	消化管内視鏡科

計 13 件

計 157 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	理事長 嘉山孝正
管理担当者氏名	医療安全管理室長荒井保明、総務課長中澤敏和、看護部長丸口ミサエ、薬剤部長山本浩史、医事室長出田剛一。

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務部、看護部、放射線科、財務経理部医事室	カルテ、エックス線写真とも入院、外来を含め一患者一ファイル方式にて管理している。 (1) 診療録等は永久保存 (2) 内視鏡フィルム、10年 (3) フィルム（内視鏡フィルム除）5年 (4) 病理、細胞診プレパレート、20年
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部
	高度の医療の提供の実績	医事室
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	がん対策企画課
	高度の医療の研修の実績	がん対策企画課
	閲覧実績	総務部、医事室
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部、医事室	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務課長・医事室長
閲覧担当者氏名	総務班長・医事班長
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課・財務経理部医事室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	90件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 5件
	地方公共団体	延 2件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	96.2%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		7,730人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,648人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		384人
	D: 初診の患者の数		8,656人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：1) インフォームド・コンセントについて2) 意識改革及び啓発を図るための教育・研修及び講演会について3) アクシデント・インシデント報告について4) 1から3を遂行するための組織及び体制について明記している（平成23年4月1日改訂）。</p> <p>医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療安全管理規程を定め、医療事故等防対策委員会・医療安全部会を設置している。各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを置き、医療事故等事例の報告内容の把握・検討等を行い、再発防止に努めることとしている。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：医療安全管理室へ報告される医療事故等事例について、医療安全管理室作業部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。部会での検討事項を毎月開催している医療安全管理委員会に報告後、決定事項を医療安全管理者から各部署のリスクマネージャーに伝達し、所属職員に伝達・周知徹底を図っている。（平成23年4月1日からは、作業部会→医療安全管理部会、医療安全管理委員会→医療事故等防止対策委員会に名称変更して現在活動している）</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>&lt;全職員対象&gt;7月11日 医療安全推進活動 849名（ビデオ上映・閲覧を含む）</p> <p>&lt;全職員対象&gt;11月1日 医療安全の基本 762名（ビデオ上映・閲覧を含む）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達</li><li>・ 院内メールによる緊急対策の周知</li><li>・ 医療安全管理ニュースの発行</li><li>・ 職員全員参加の研修会の実施</li><li>・ 医療安全ポケットマニュアルの年 1 回の更新</li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 2 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 1 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 7 5 ) 名・・・但し、院長除き副院長を含む</p> <p>・ 活動の主な内容：医療安全管理に関する情報収集・情報提供、インシデント・アクシデント実態把握・分析・再発防止対策の立案・広報、医療安全に関する職員教育</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：感染対策の基本的な考え方、感染対策体制の整備（院内感染対策委員会、感染対策チームの設置と業務内容）、専従者の配置、職員に対する研修の基本方針、感染発生状況報告に関する基本方針、発生時の対応に関する方針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針、その他、感染対策推進のために必要な方針</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：感染対策の実施および指導に関することの審議、感染症発生時の対応に関する審議、感染対策チームの活動の支援および問題提起、院内感染対策に関する事項の管理と指導、</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：H22 9月「知っておきたい院内感染対策」、3月「薬剤耐性菌と院内感染対策」、および全職員対象手洗イドレーにング H23 6月「院内感染対策の外部評価」、年3回予定、手洗い・PPE実技トレーニング4回（7回予定）、初級研修「標準予防策」2回（5回予定）</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：</li></ul> <p>感染症の発生状況はJANISに参加し、耐性菌サーベイランス、SSIサーベイランスを実施。また部署限定で中心ライン関連血流感染サーベイランス、血培陽性サーベイランス実施。職員への周知は医療安全メーリングリストを活用、ほかニュース発行</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
・ 研修の主な内容：医薬品の適正使用、抗がん剤等の取り扱いなど	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容：常備薬の管理状況調査及び各部署による自己評価	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： メトホルミンとヨード造影剤の併用について プラザキサに関するブルーレター対応 プラザキサの電子カルテ名称に「抗トロンビン薬」と記載 後発品切り替え品目に先発品名を付記	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年54回
・ 研修の主な内容： 血液浄化装置、人工呼吸器、輸液ポンプ、除細動器・AED、PCPSの取り扱い方法や注意点について	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 特定医療機器に関しては、臨床工学技士管理の下、日常点検、使用前点検、定期点検を行っている。 病棟の医療機器は、管理部署の看護師が日常点検を行い、臨床工学技士による定期点検、メーカーによる定期点検を行う等連携をとっている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 各種医療機器稼働率調査 日常点検チェックシートの作成 臨床工学技士による定期点検の実施・点検状況の把握 医療安全管理室ニュース（医療安全、感染と連携）の定期発行 修理・故障報告件数・内容のデータ管理 使用マニュアルの改訂 出張勉強会の実施	